

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 4 月 12 日 (2007.4.12)

【公開番号】特開 2007-21083 (P2007-21083A)

【公開日】平成 19 年 2 月 1 日 (2007.2.1)

【年通号数】公開・登録公報 2007-004

【出願番号】特願 2005-211395 (P2005-211395)

【国際特許分類】

A 4 7 L 9/16 (2006.01)

A 4 7 L 9/20 (2006.01)

【F I】

A 4 7 L 9/16

A 4 7 L 9/20 E

A 4 7 L 9/20 5 2 1 H

A 4 7 L 9/20 5 3 1 T

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 2 月 22 日 (2007.2.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

電動送風機と、

細塵出口を有して前記電動送風機の吸気口に連通する塵分離ケースと、

この塵分離ケースに設けられ前記細塵出口と連通可能な分離室を有して前記電動送風機により吸引された含塵空気中の塵をこの塵の慣性力により空気と分離する塵分離手段と、

この塵分離手段で分離された塵が溜められる集塵部と、

前記塵分離手段の下流側に配置され前記塵分離手段を通過した塵をろ過により空気と分離するフィルターと、

このフィルターに捕捉された塵を落す塵落し手段と、

前記電動送風機の運転状態では前記細塵出口を閉じるとともに前記電動送風機の停止状態では前記細塵出口を開く開閉部材と、を具備し、

前記電動送風機の停止状態での前記塵落し手段の塵落し動作により前記フィルターから落される塵を、開かれた前記細塵出口を通して前記分離室に排出し、この排出された塵を、前記電動送風機の運転に伴い前記分離室を流通する気流によって前記集塵部に回収するようにした電気掃除機。

【請求項 2】

電動送風機と、

前記電動送風機の吸気口に連通する塵分離ケースと、

この塵分離ケースに設けられ前記細塵出口と連通可能な分離室を有して前記電動送風機により吸引された含塵空気中の塵をこの塵の慣性力により空気と分離する塵分離手段と、

この塵分離手段で分離された塵が溜められる集塵部と、

前記塵分離手段の下流側に配置して前記塵分離ケースに組み込まれ前記塵分離手段を通過した塵をろ過により空気と分離するフィルターと、

このフィルターに捕捉された塵を落す塵落し手段と、

前記塵分離ケースに設けられるとともに、前記フィルターの表面に臨んで前記塵分離ケ

ース内に形成された上流側室と前記分離室とを連通する細塵出口と、を具備し、

前記細塵出口は、前記電動送風機の停止状態での前記塵落し手段の塵落し動作により前記フィルターから落される塵を前記分離室に排出し、前記電動送風機の運転状態では開閉部材により閉じられるようにした電気掃除機。

【請求項 3】

前記分離室がこの室内を流通する気流の一部が通る細塵回収部を有し、この細塵回収部を前記細塵出口から排出される塵を受けるとともに設けた請求項 1 又は 2 に記載の電気掃除機。

【請求項 4】

前記塵分離ケースは前記フィルターの下方に前記細塵出口へと連続する底壁を有し、前記塵落し手段による前記フィルターの塵落しに伴って、前記底壁に落された塵を前記細塵出口から排出させる振動を前記塵落し手段で前記塵分離ケースに与えるようにした請求項 1 から 3 の内のいずれか一項に記載の電気掃除機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明は、分離室を有して電動送風機により吸引された含塵空気中の塵をこの塵の慣性力により空気と分離する塵分離手段を塵分離ケースに設け、塵分離手段の下流側に、この塵分離手段を通過した塵をろ過により空気と分離するフィルターを配置し、塵落し手段によってフィルターから落された塵を分離室に排出する細塵出口を塵分離ケースに設けるとともに、この細塵出口を電動送風機の運転状態では閉じるとともに電動送風機の停止状態では開く開閉部材を設け、細塵出口から分離室に排出された塵を、塵分離手段で分離された塵が溜められる集塵部に、前記分離室を流通する気流によって回収するようにしている。